

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

| | | |
|--------------------------------|-----|----|
| I. 理念に基づく運営 | 項目数 | 8 |
| 1. 理念の共有 | | 1 |
| 2. 地域との支えあい | | 1 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | 3 |
| 4. 理念を実践するための体制 | | 2 |
| 5. 人材の育成と支援 | | 0 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | 1 |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | 0 |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | 1 |
| III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | 5 |
| 1. 一人ひとりの把握 | | 1 |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | 1 |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | 0 |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | 3 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | 6 |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | 4 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | 2 |
| 合計 | | 20 |

| | |
|-------|--------------------|
| 事業所番号 | 1471903052 |
| 法人名 | 有限会社Cocci |
| 事業所名 | グループホーム ちゃばしら |
| 訪問調査日 | 平成23年3月2日 |
| 評価確定日 | 平成23年4月22日 |
| 評価機関名 | 株式会社 R-CORPORATION |

○項目番号について
外部評価は20項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
[取り組みの事実]
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[次ステップに向けて期待したい内容]
次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家 族 = 家族に限定しています。
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成 22 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | | |
|---------------|--|----------------|------------|--|
| 事業所番号 | 1471903052 | 事業の開始年月日 | 平成18年3月1日 | |
| | | 指定年月日 | 平成18年3月1日 | |
| 法人名 | 有限会社Cocci | | | |
| 事業所名 | グループホーム ちゃばしら | | | |
| 所在地 | (〒238-0043) 神奈川県横須賀市坂本町5-5-18 TEL/FAX 046-823-0075 | | | |
| サービス種別 定員等 | <input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護 | 登録定員 | 名 | |
| | | 通い定員 | 名 | |
| | | 宿泊定員 | 名 | |
| | | 定員計 | 7名 | |
| | | ユニット数 | 1ユニット | |
| 自己評価作成日 | 平成23年1月18日 | 評価結果 市町村受理日 | 平成23年4月27日 | |

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員一人一人が利用者の身体の残存能力維持、認知症の緩和を目的とし、レクリエーションなど積極的に行っている。また利用者の心身のリラックス、ホーム内の清潔保持を目的とし、積極的にアロマセラピーを導入している。アロマを使用して毎日掃除を行っている為、施設特有の臭いがなくホーム内がいつも快適である。天候が良いときは健康保持、体力増進の為に戸外へ散歩に出かけている(基本毎日)。地域との交流を積極的に図っている。開所以来職員の定着率が高いが、更に今年度は職員を増員し、人員的に非常に充実している。1ユニットの小規模ホームで、利用者、職員皆で家族の様に過ごしている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|------------------------------------|---------------|------------|
| 評価機関名 | 株式会社 R-CORPORATION | | |
| 所在地 | 〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F | | |
| 訪問調査日 | 平成23年3月2日 | 評価機関 評価決定日 | 平成23年4月22日 |

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

このホームの特徴
 ①このホームは有限会社 Cocci経営で、平成18年3月に開所した1ユニット、2階建てのグループホームある。汐入駅からバスで10分程度のところで、自然が残り、林や公園もあり、散歩にも適した環境である。ホームはオーナー(ホーム長)個人の経営で、この建物は親族が花屋の倉庫として使っていたもので、地元で親近感がある。ホームの、ひらがなの名前「ちゃばしら」は暖かく、馴染み易いホームの雰囲気を表しており、この名前を見て入居を決めた利用者もいる。建物、周囲の土地の関係上、居室は7部屋を設け、グループホームとしては小型なものであるが、この人数による共同生活は大家族と云える一体感があり、介護も行き届いている。入居者も安心して生活出来ている。臭の防止を兼ねてアロマを導入しているのが1つの特色となっている。共同の空間でアロマを焚く他、お風呂での使用、雑巾がけの水に混ぜ、清潔と体力維持を兼ねて利用者と共に活用している。
 ②最近、組織を変更して代表、管理者、主任、ケアマネジャーの職務分担を決めた。代表は経営者、管理者(兼任)と事務方の業務を担当し、主任は1介護者として従事する他、ホームの内部管理、利用者、ご家族における一切を担当し、ケアマネジャーは1介護者として従事する他、介護計画、カンファレンス等を担当する等、役割分担を行なっている。それぞれの重複業務の排除により、各々に他への心配りする余裕も生まれ、対利用者対応も一層きめ細かくなり、ご家族からの信頼度も増してきている。
 ③地域との関係では、交流を積極的に図り、地域に根ざしたホームとするという理念の下、町内会を中心に積極的に地域交流を図ってきているが、近年、ADLの低下が顕著となり、積極的なケアが難しい中、お元気な方には参加して頂き、理念の実践のため、職員のスキルアップを図り、介護の底上げを目指し努めている。地域で行われている「高齢者と若者のつどい」には継続的に参加し、一緒に食事をして、ゲームに参加する等、楽しんで頂く工夫に努めている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

| 評価項目の領域 | 自己評価項目 | 外部評価項目 |
|------------------------------|---------|---------|
| I 理念に基づく運営 | 1 ~ 14 | 1 ~ 7 |
| II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | 15 ~ 22 | 8 |
| III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | 23 ~ 35 | 9 ~ 13 |
| IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | 36 ~ 55 | 14 ~ 20 |
| V アウトカム項目 | 56 ~ 68 | |

| | |
|-------|---------------|
| 事業所名 | グループホーム ちゃばしら |
| ユニット名 | |

| V アウトカム項目 | |
|---|----------------|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25) | ○ 1, ほぼ全ての利用者の |
| | 2, 利用者の2/3くらいの |
| | 3. 利用者の1/3くらいの |
| | 4. ほとんど掴んでいない |
| 57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38) | ○ 1, 毎日ある |
| | 2, 数日に1回程度ある |
| | 3. たまにある |
| | 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38) | ○ 1, ほぼ全ての利用者が |
| | 2, 利用者の2/3くらいが |
| | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | 4. ほとんどいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37) | ○ 1, ほぼ全ての利用者が |
| | 2, 利用者の2/3くらいが |
| | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49) | ○ 1, ほぼ全ての利用者が |
| | 2, 利用者の2/3くらいが |
| | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31) | ○ 1, ほぼ全ての利用者が |
| | 2, 利用者の2/3くらいが |
| | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | 4. ほとんどいない |
| 62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28) | ○ 1, ほぼ全ての利用者が |
| | 2, 利用者の2/3くらいが |
| | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | 4. ほとんどいない |

| | |
|--|----------------|
| 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19) | ○ 1, ほぼ全ての家族と |
| | 2, 家族の2/3くらいと |
| | 3. 家族の1/3くらいと |
| | 4. ほとんどできていない |
| 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19) | 1, ほぼ毎日のように |
| | 2, 数日に1回程度ある |
| | ○ 3. たまに |
| | 4. ほとんどない |
| 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4) | ○ 1, 大いに増えている |
| | 2, 少しずつ増えている |
| | 3. あまり増えていない |
| | 4. 全くいない |
| 66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12) | ○ 1, ほぼ全ての職員が |
| | 2, 職員の2/3くらいが |
| | 3. 職員の1/3くらいが |
| | 4. ほとんどいない |
| 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。 | ○ 1, ほぼ全ての利用者が |
| | 2, 利用者の2/3くらいが |
| | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | 4. ほとんどいない |
| 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。 | ○ 1, ほぼ全ての家族等が |
| | 2, 家族等の2/3くらいが |
| | 3. 家族等の1/3くらいが |
| | 4. ほとんどいない |

| 自己評価 | 外部評価 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 地域との交流を積極的に図り、地域に根ざしたホームとするという理念の下、町内会を中心に積極的に地域交流をしている。 | 運営理念を玄関に提示することで、職員の意識を常に理念の実践に向くようにしている。地域との交流を積極的に図り、地域に根ざしたホームとするという理念の下、町内会を中心に積極的に地域交流を図っている。日常の中で、管理者（代表）、主任、ケアマネを中心に理念の話をスタッフにしている。 | 今後の継続 |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 町内会への加入。地域行事への参加。町内会でホームの紹介など行っている。また、日常の散歩の中でも地域の方との交流を図っている。 | 町内会に加入し、地域行事への参加。町内会でホームの紹介など行っている。設立当初より、地域交流を積極的に行っており、地域の方々も非常にホームに対し、温かい支援を頂いている。町内のお祭り、高齢者と若者のつどい等には毎年積極的に参加をし、地域との親交を深めている。 | 今後の継続 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 町内会からの依頼で、認知症について、またグループホームでの介護についての講演を行った。 | | |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 外部評価についてだけでなく、介護保険法改定等についても説明をする等、ホームがどのような状況下にあるか情報提供している。また、会議で出た意見は積極的に導入している。 | 本年度より横須賀市では、運営推進会議は事業所会議を年6回開催することとなり、メンバーを民生委員（連合民生委員長）、坂本（地元）の民生委員、ご家族及びホーム関係者で行っている。議題は外部評価結果、介護保険法改定情報等の説明、ホーム状況報告などである。また、会議で頂いたご意見は積極的に運営に生かすよう努めている。 | 今後の継続 |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 市町村担当者とは連絡を密にし、協力関係を築く取組みを積極的に行っている。 | 横須賀市は高齢者対策に熱心であり、横須賀市担当者とは連絡を密にし、分からない点については相談し、協力関係を築く取組みを積極的に行っている。 | 今後の継続 |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 利用者の心身の状態の安定を図る為にも、身体拘束は行わないという理念の下、日常のケアにあたっている。また高齢者虐待について各職員が自己チェックを実施している。玄関については施錠はしていない、夏期に於いては戸を開放したままにしている。 | 身体拘束の弊害を正しく理解し、利用者の心身の状態の安定を図り、身体拘束は行わない理念に沿って日常のケアに努めている。また、高齢者虐待について各職員が自己チェックを実施している。施錠は玄関を含め一切しないケアを続けており、特に夏期に於いては戸を開放したままにしている。 | 今後の継続 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 高齢者虐待の研修に参加した者が中心になり職員研修を行っている。また、高齢者虐待について自己チェックを職員各自が行っている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 管理者が研修に参加をし、それを元に職員研修を実施している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居相談、契約時には十分な説明を行っている。相談窓口は随時相談可能にしている。 | | |
| 10 | 6 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者、ご家族からの意見、要望に関しては積極的に受け入れ、可能な限り事業の運営に反映させている。 | 利用者については日頃の見守りの中で意向の吸い上げを図り、ご家族については主に来訪時に意見、要望を聞き、積極的に受け入れ、可能な限り事業の運営に反映させるようにしている。 | 今後の継続 |

| 自己評価 | 外部評価 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 11 | 7 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | ホームをよりよくする為に、職員からの意見は可能な限り積極的に導入するよう管理職は心掛けている。管理職と職員の距離が近い意味で近い。 | 職員の意見は基本的には会議で吸い上げ、管理職は、ホームをよりよくする為に可能な限り積極的に職員の意見を導入するよう心掛けている。このホームでは管理職と職員の距離が近い意味で近い点も良い効果を生んでいる。 | 今後の継続 |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 代表者は職員個々の努力、実績、能力を把握し、各自が向上心を持って働けるような職場環境の整備に努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 代表者は職員個々のケアの実際と力量を把握し、各々に適した研修を働きかける等心掛けている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている | 介護主任を中心に、グループホーム協議会の研修等に積極的に参加している。参加することで、ケアへの知識、技術が向上するだけでなく、同業者同士のネットワークも確立される。 | | |
| II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | サービス開始の段階で困っていることなどの相談を受け、要望等に関しては積極的に受け入れるように心掛けている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 利用者同様、相談等には親身に対応している。相談窓口は24時間、365日常に対応出切るようになってきている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ケアマネがアセスメント、サービス計画表を作成するにあたり、どのようなサービスが一人一人の利用者に必要か見極めるよう努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 小規模ホームであることを活かし、職員、利用者皆が家族と思えるようなケアを提供している。 | | |
| 19 | | ○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 月に1回利用者の状況を書面にて報告している。また毎年夏にご家族をホームに招き食事会を開いている。 | | |
| 20 | 8 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 日中生活の中で手紙を書く等している。 | 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人に対し、日中生活の中で手紙を書く等の支援をしているが、ここでの生活が長く、馴染みの人との縁が薄くなっている利用者が多く、ここを家とし、地域とのお付き合いを大切に考え支援している。 | 今後の継続 |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 小規模ホームであることを活かし、皆が家族と思えるような関係作りを心掛けている。現在利用者7名が女性の為、色々と人間関係等の問題もあるが、そこは職員が間に入り調整している。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス利用終了後も賀状を送るなどホームの近況報告を行っている。 | | |
| Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | 9 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。 | 利用者一人一人のそれまでの人生を反映出来るような生活を心掛けている。利用者一人一人の希望も可能な限り実現できすよう努めている。 | 認知症の方への対応は理屈ではなく、その人の云うことを傾聴しコミュニケーションをとること、スキンシップで安心してもらうことが大切であり、上から目線の対応は絶対に行わず、笑顔で対応するよう職員に指導している。利用者一人一人のそれまでの人生を反映出来るような生活を心掛けている。利用者一人一人の希望も可能な限り実現できすよう努めている。 | 今後の継続 |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ケアマネのアセスメントを元に、利用者のそれまでの人生（生活歴）、サービス利用の経過について把握をすることに努め、ホーム内での日中生活に活かすよう心掛けている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 会議だけでなく、日常も管理職を中心に都度話し合いをし、利用者一人一人の状態把握に努めている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|------|------|--|---|---|-------------------|--|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 26 | 10 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ケアマネが中心になって、会議や日常の中で、利用者が日々を快適に過ごせるよう話合いの場を設け、その中から出た意見等を反映し、提供するサービスの向上を図っている。 | ケアマネが中心になって、会議や日常の中で、利用者が日々を快適に過ごせるよう話合いの場を設け、その中から出た意見等を反映し、提供するサービスの向上を図っている。ご家族との面談だけでなく、医療機関等とも連携しながら一人一人の介護計画を作成している。提携医療機関、各主治医等との情報交換を密接に行い、介護計画作成に役立っている。 | 今後の継続 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 気づきや、サービス向上の為の良い情報についてはサービス記録への記入だけでなく、職員ノート、口頭での伝達等行い。皆が認識出切るよう努めている。 | | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 日課、またはサービス計画に固執せず、いい意味で臨機応変に対応できるケアを心掛けている。 | | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 利用者一人一人の暮らしを支えている地域資源への把握に努め、一人一人が快適な日常を送ることが出切るよう努めている。 | | | |
| 30 | 11 | ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 医療機関の受診については、ホームの提携医療機関に拘らずに利用者本人、ご家族の希望に沿った医療機関受診をするよう努めている。医療機関については、入居相談時に行っている。 | ホームのかかりつけ医は基本的には近くの医院と提携し、原則通院であるが、先生の判断で往診して頂いている方が半数いる。医療機関の受診については、ホームの提携医療機関に拘らずに利用者本人やご家族の希望に沿った医療機関受診出来るようにしているが、ご家族の希望により他病院受診をしている方が2名いる。精神科の往診が月1回あり、全員が受診している。医療機関の決定については、入居相談時に相談するようにしている。 | 今後の継続 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 現在看護職員はなし。訪問看護については利用時には看護師との連絡を密にし、利用者の体調管理に努めた。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院した際には面会に脚を運ぶ等して、入院中の利用者の状態把握、医療機関からの情報収集に努めている。 | | |
| 33 | 12 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 利用者の状態に応じ、重度化、終末期の話をご家族とし、希望に沿ったケアをするよう努めている。 | 現状、医療連携体制は取っておらず、利用者の状態に応じ、重度化、終末期の話をご家族とし、希望に沿ったケアをするよう努めている。重度化した場合には、主治医が認める範囲内で主治医を交えて話しあい、同意書を交わすケースもある。 | 今後の継続 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時、事故発生時のマニュアルを作成し、職員にはそれを周知している。また救急法の研修への参加した者がホーム内で研修を行う。また従来職員の会議の中でも緊急対応についての研修を実施している。 | | |
| 35 | 13 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 災害時等の対応マニュアルを作成している。それを元に年2回地域の消防署の指導のもと、消防訓練を実施している。また、事業所会議中で災害時の協力体制について町内に依頼している。 | 災害時等の対応マニュアルを作成し、それを仰いで消防訓練を実施している。また、運営推進会議・事業所会議の中で災害時の協力体制について町内に依頼をしている。 | 今後の継続 |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|--------------------------|------|---|--|--|-------------------|---|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | | |
| 36 | 14 | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 運営方針で利用者への介護は同視線で、また畏敬の念を持つよう提示し、職員一人一人がそのことを念頭において介護あたっている。ホーム内でコミュニケーション研修を実施している。 | 人格の尊重とプライバシーの確保については、運営方針で利用者への介護は、同じ目線で、また畏敬の念を持って行うよう示しており、職員は一人一人がそのことを念頭においてケアに努めている。また、ホーム内でコミュニケーション研修を実施し研鑽している。 | 今後の継続 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者一人一人の希望を尊重し、日常生活を快適に送れるような環境づくりに努めている。 | / | | / |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者優先、利用者一人一人がホームの主演という理念の元、一人一人の生活リズムを大切にサービス提供を心掛けている。 | | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 利用者一人一人の身だしなみには気を配り、日常整髪、化粧等の整容を行っている。 | | | |
| 40 | 15 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者一人一人の能力に応じた準備、片付け等の手伝いをして頂いている。 | 献立は調理する人が、ある素材を見て決めて作成している。主任を中心に仕入れる食材の希望を書いて代表がまとめて買いに行っている。料理に足りない食材は近所に、散歩がてら、利用者を連れて一緒に買いに行くこともある。準備や片付けは利用者一人一人の能力に応じた手伝いをして頂いている。 | 今後の継続 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 体重、既往症等に応じ、食事制限が必要な場合は、食事量調整を行う。また水分摂取量に於いては記録をし、状況把握に努めている。夏期には水分摂取量に十分注意をしている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後口腔ケアを行っている。自立出来ている利用者も最後に職員が確認をし、口腔内の清潔に努めている。 | | |
| 43 | 16 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている | オムツ使用の身体的に重度の方であってもトイレへ誘導をし、トイレで排泄をする支援をしている。 | オムツ使用の身体的に重度の方であってもトイレへ誘導をし、トイレで排泄をする支援をしている。声掛けして誘導することが中心で、20～30分後に再度お誘いする等、支援を行なっている。便秘には特に気を配り、座って、お話ししながら腹圧の体操などを促している。食事にも気をつけ、繊維質、ヨーグルトを摂って頂き、それでも駄目な場合には（3日以上）薬も検討し用いている。 | 今後の継続 |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便秘が及ぼす副作用については十分に理解し、飲食物の工夫、日常生活の中で運動をするなど心掛けている。 | | |
| 45 | 17 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている | 以前は一人一人が毎日入浴していたが、利用者の体力等を配慮し、現在は隔日入浴を基本としているが、利用者一人一人のその時の状況に応じた対応をしている。 | 以前は一人一人が毎日入浴していたが、利用者の体力等を配慮し、現在は隔日(週3回)の入浴を基本としている。利用者一人一人のその時の状況に応じた支援に努めている。アロマは香りが心地良い上、保温効果もあるのでアロマを入浴に取り入れ、お風呂を楽しめる工夫をしている。 | 今後の継続 |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中の過ごし方についてはおおまかな流れだけ決めており、それにとらわれず、一人一人のペースで過ごして頂いている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 職員一人一人が服薬の目的、副作用等を理解し、十分に注意をして支援している。現在薬の変更についての申し送りは、記録、職員ノート、口頭伝達と3段階で行っており、薬変更後の利用者には十分に注意をして支援している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 利用者一人一人の力を活かせる様、また日常を楽しく過ごせるように、一人一人のそれまでの人生、経験を踏まえたアプローチを心掛けている。 | | |
| 49 | 18 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 戸外への散歩は毎日の日課にしている。また気候がいい時に車を使用してホーム全体での外出を行っている。町内のお祭り等に参加をする場合は町内会に協力要請をする。 | 戸外への散歩や外気浴は毎日の日課にしている。また気候がいい時に車を利用して、ホーム全体での外出を行い、菖蒲園に行って食事をしたりしている。町内のお祭り等に参加をする場合は町内会に協力要請をし、支援している。 | 今後の継続 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 現在、介護度が進み自室にお金を所持している方は少ないが、可能な限り支援をしていく。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 利用者のご親族に手紙を書く等の支援を行っている。電話に関しては利用者より希望があった場合にはかけて頂いている。 | | |
| 52 | 19 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 毎月利用者とその月々の季節感を出せる様な掲示物を作成している。また、清潔保持、消臭の為にアロマオイルを使用して毎日掃除をし、ホーム内を快適な空間にするよう心掛けている。 | 毎月利用者とその月々の季節感を出せる様な掲示物を作成している。玄関、リビングには四季折々の物を飾っている。気候が良い時は利用者が摘んできた花等を玄関に飾る等の配慮をしている。トイレ、浴室は消臭の為にアロマオイルを使用して毎日掃除をし、いつも清潔、綺麗を心掛けている。ひな祭り、お節句、クリスマス等、季節の行事時にはホーム内を装飾することで、利用者が楽しく過ごせる様にしている。 | 今後の継続 |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共有空間の中で、それぞれお気に入りの場がある。気が合う利用者同士で、快適に過ごせる様な空間作りを心掛けている。 | | |
| 54 | 20 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室には家具、写真など馴染みの物を持参して頂き、出来るだけ自宅にいた時と同じ様な空間で過ごして頂くような働きかけをしている。 | 居室には火気の物以外は原則何でも持ち込み可としている。利用者に、出来る限り、自宅での生活をそのまま過ごして頂ける様に努めている。家具、写真など馴染みの物を持参して頂き、自宅に居るような感覚を提供できるよう働きかけている。 | 今後の継続 |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | ホーム内を可能な限り、安全かつ、出来るだけ自立した生活が送れるよう、また認知症の緩和にもなるような構造にしている。 | | |

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホームちゃばしら

作成日

平成23年3月3日（木）

〔目標達成計画〕

| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目 標 | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容 | 目標達成に要する期間 |
|------|------|--------------------------|--|---|------------|
| 1 | 35 | 夜間の災害等緊急時の対応について | 全夜勤スタッフが災害発生時等に落ち着いて対応出来るように訓練を実施。 | 夜間を想定した防災訓練を定期的実施する（現在より実施回数を増やす。）。 | 1年間 |
| 2 | 12 | 重度化、終末期を迎えた際のご家族の意向について。 | 重度化、終末期を迎えた際にご家族、利用者本人がホームに求める支援について把握をする。 | 現在元気な方であっても、ご家族と話し合いをする時間を設ける。 | 1年間 |
| 3 | 13 | 研修参加者の偏りについて | 全職員が1回は研修に参加出来るような職場環境作り | 現在多い時は一カ月に一回研修に参加しているが、研修に参加する職員に偏りがあるの で、全職員が研修に参加出来るようにする。 | 1年間 |
| | | | | | |
| | | | | | |

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。